語 教科名 国

科目名現 代 語 0) 国

必 修

科別普 通科

学年

年 コース名 α・選抜・進学

2 単位 文理共通

教 科 書(発行所)

現代の国語(大修館書店)

副 教 材(発行所)

大学入試漢字TOP2000(いいずな書店)、読解演習はじめての評論文20選(明治書院)小論文チャレンジノートVol.1・2(第一学習社)

学		国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
観点	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。
別		「話すこと・聞くこと」,「書くこと」,「読むこと」の各領域において,論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし,他者との関わりの中で伝え合う力を高め,自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
評価		言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を 深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
留		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学	習	単	元	学	習首	内	容	備	考
第	4	1 明日をひら ^く 「白紙」 「伝える、伝				・言葉やコミュニケー・相手や目的に応じが				年間通し [*] テストや課 う。	
1	_	2 要点をつか 「水の東西」 3 的確に伝え 「伝わるよう!	(読む) る に話す」(記			・叙述を的確にとらえ・文章の要点をまとめ・話し言葉の特徴を失・起まに正確に伝わ	っる。 ロり、聞き手が理	解しやすい説明	月の仕方を考える。		
学	6	4 意見を示す 「発想を広り 「意見を書く	げる」(話す・			・他者と意見を交流し ・構成や展開を意識 ・根拠を明確にして、	、アイデアを出し して文章を書く。	し合い整理する	0		
期	7	5 論理をとらえ 「動的平衡と		勿多様性」(言	読む)	・主張と根拠、理由へ ・演繹、帰納に着目し				夏季課題	学習
第	9	6 魅力的に伝 「工夫して記 「魅力的な糸	らす」(話す			・相手の興味を惹くよ速度 などを意識する・さまざまな表現上の	5.		, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	夏季課題	提出
2	10	7 資料を駆使 「『安くておい 「統計資料を	ハしい国』の どもとに意見			・資料と文章の関係/ ・統計資料を正確に 分の 主張を書く。			り比較したりして、自		
学	11	8 他者と交流 「目的に沿っ 「状況に応じ	った質問を			・質問の目的を明確 ・通信文の基本的な ・相手や場面に応じた	ルールを知る。	とへの理解を深	める。		
期	12	9 情報を比較 「『美しさの多		ハて」(読む))	・複数の文章を比較	、共通点や相違	違点をとらえる。		冬季課題	学習
第	1	10 他者を動か 「説得力のな 「資料を用い	ある資料をつ			・提案を検討する際に ・効果的な表現や資 ・資料に基づいて、服	料の提示の工夫	を学ぶ。	失しながら発表す	冬季課題	提出

3 学	2	11 主張を吟味する 「贅沢を取り戻す」(読む) 「文章を読み取って主張を書く」 「討論をする」(話す・聞く)	・文章中の根拠や引用に注目し、その妥当性や信頼性を吟味する。 ・他者の主張をふまえて、自分の考えを書く。 ・司会者、参加者それぞれの役割を理解するとともに、論理展開や表現 を意識しながら自分の意見を述べ、相手の話を評価する。	
期	3	12 考えを発信する 「白」(読む) 「結論を出すために話し合う」(話す・聞く) 「レポートを書く」(書く)	 ・目的に即して必要な情報を読み取る。 ・異なる意見を持つ人同士が話し合い、結論の出し方を学ぶ。 ・適切な情報を集め、問いを立てる。 ・調べたことを根拠として、問いを解決するレポートを書く。 	春季課題学習

進捗状況やコースによって学習内容を変更する可能性があります。

語 国

科

科目名

嚭 文 化 言

必修

科 別

普 通

学 年

年 コース名 α・選抜・進学 コース

2 単位 文理共通

教 科 書(発行所)

言語文化(大修館書店)

副 教 材(発行所)

基礎から学ぶ解析古典文法(桐原書店)、基礎から学ぶ解析古典文法演習ノート(桐原書店)、読んで見て覚える重要古文単語315(桐原書店)

学	習目標	言語文化に対する理解を深めつつ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高めながら自分の思いや考えを深めたり広げたりするとともに、読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
観点	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに, 言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
別	思考・判断・表現	「書くこと」,「読むこと」の各領域において,論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし,他者 との関わりの中で伝え合う力を高め,自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
評価		言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を 深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
留		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学	習	単	元	学	羽	内	容	備	考
第	4	1 言語文化へ 「世界を見わり 2 言葉の紡ぐり 「羅生門」	こす窓」				係について、筆者 の心情変化を読み	•	7.5.		
1	5	3 伝統と発展 「実体の美とり 「短歌 十二官 「俳句 十五年	前」 可」			・美についての筆・短歌や俳句に親・作品にうたわれる	しみ、表現の特徴	を理解する。		中間考査	
学		4 表現の多様 「夢十夜」 5 日本と世界 「外国語の不」	思議 日本語	吾の不思議		作品の表現に着日本語と外国語			見つめ直す視点を		
期	7	6. 文学上』生 探究 「災害の」	記録」			・異なる時代に書だっいて考える。	かれた記録文を読	み、災害が人々	に及ぼした影響に	期末考査 夏季課題	
第		1 古文に親しる 「宇治拾遺物」 2 自然へのまれ 「徒然草」「枕草	語」 なざし				や、特有の言い回 する作者の感覚を		語の展開を捉える。	夏季課題	提出
2		3 想いを表す 「恋するこころ 「四季の移ろい 「旅と別れ」	I			・和歌の印象的な・和歌の修辞を学・自分の感じたこと		とる。		中間考査	
学	11	4 人との交わり 「伊勢物語」 「源氏物語へら				・和歌の修辞を学	解し、読み味わう。 ぶ。 要を知り、他の作		江ついて考える。		
期	12	5 語り継がれる 「平家物語」	5歴史				解し、読み味わう。		れているか読み取る。	期末考査冬季課題	
第		6 旅と人生 「土佐日記」「〕 1 漢文に親しる 「私たちと漢文	to			・旅に出るまでのかり・日記の形態や書・漢文に親しむ。			_ 10 - 7 0 0	冬季課題	提出

3	2	2 現代に生きる言葉 「蛇足」「完璧」 3 想いを表す言葉〈二〉	・漢文訓読のきまりを知り、この話から生まれた言葉への理解を深める。	
学		漢詩	・漢詩の形式や詩の特徴を理解し、読み味わいながら表現の工夫を読み取る	
期	3	4 文学と社会 「雑説」	ルサップルチュルマ	学年末考査 春季課題学習

進捗状況やコースによって学習内容を変更する可能性があります。

地 歴 公 民 科目名 **地 理**

総合

必修

科 別

普 通

科 学年 1 年 コース名 α·選抜・進学 コース

2 単位

文理共通

教 科 書(発行所)

地理総合(東京書籍)

副 教 材(発行所)

地理総合ワークノート(東京書籍)

学		必修科目として、高等学校の地理をこの科目だけで終える生徒および引き続き地理探究を履修する生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の地理的に考える資質・能力の基礎を培う。
観点	知識・技能	地理的諸事象について、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能などを各学期の定期考査、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
別	思考·判断·表現	地理的事象の意味や意義、特色や関連性を、位置や分布、人間と自然環境との相互依存関係や地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、表現したりすることができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
評価		自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて主体的に追究し、地理的事象を多面的・多角的にな考察や深い理解に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組み、ノートや課題等で評価する。
留		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学	羽首	単	元	学	羽白	内	容	備	考
第	4	第1編 地図や 界 第1章 私たち 第2章 地図や	が暮らす世	世界		[発展]地形図を読	図を選ぼう ルール、主題図程 そみ取ろう、WebGI	重類と読取、地理 Sを使ってみよう	里情報システムと地図 う	【GW探究	課題】
1	5	第3章 資料办	ら読み取る	3現代世界		易、つながる世界・	多極化する世界		の移動、拡大する貿 階級区分図を作ろう	中間考査	
学	6	第2編 国際理 第1章 人々の 1節 生活文 2節 生活文	生活文化 化の多様	と多様な地 生と国際理角		文化の地域性と多らし、海岸の暮らし		の暮らし、山地	の暮らし、平野の暮		
期	7	3節 生活文	化と自然環	環境②気候		多様な気候とその 温帯の人々の暮ら [発展]雨温図を訪	し、亜寒帯・寒帯		帯の人々の暮らし、	期末考査	
第	9	4節 生活文	化と産業			食生活と農業の分 産業の発達と生活		变化、商業立地。	と人々の生活、情報	【夏季探究提出	記課題】
2	10	第2章 様々な 1節 地球環 2節 資源・コ	境問題		力	地球環境問題(1) 燃料から再生可能		2)、資源・エネ	ルギーの偏在、化石	中間考査	
学	11	3節 人口問 4節 食料問 5節 居住・者	題			発展途上国の人口 発展途上国の居住 [発展]人口ピラミッ	E·都市問題、先進		需給をめぐる問題、 5問題		
期	12	6節 民族問7節 持続可		り実現をめる	ざして	民族問題·難民問 [発展]民族問題、		国際協力		期末考査	
第	1	第3編 持続可能 第1章 自然環 1節 日本の	境と防災	, ,		日本の地形の特色	色、日本の気候の物	寺色		【冬季探究提出	記課題】

3 学	2		地震災害・津波災害(1)、地震災害・津波災害(2)、火山の災害とめぐみ、気象災害(1)寒さ・暑さと台風、気象災害(2)大雨と洪水・土砂災害、都市と自然災害、防災・減災と復旧・復興 [発展]ハザードマップを読み取ろう	
期	3	20 1 0 1 21 1 1 1	調査テーマの設定①、地域調査1(資料調査)、地域調査2(野外調 査)、まとめと発表	学年末考査

地理歷史

総 科目名 史 合

必修

科 別

普 通

科

学年 1 年 コース名 α•選抜•進学 コース

2 単位

文理共通

教 科 書(発行所)

明解 歴史総合(帝国書院)

副 教 材(発行所)

明解 歴史総合ノート(帝国書院)

学	習目標	必修科目として、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を培う。
観点		近現代の歴史を理解しているかどうかを、各学期の定期考査や単元別の小テストで評価し、歴史総合ノート各項目の最後にある「確認「説明」の答えなどを提出させることで、効果的に調べまとめる技能を評価する。
別	思考·判断·表現	近現代の歴史の意味や意義をを考察、構想したことを説明したり、表現したりすることができるかを、定期考査の記述問 題や課題等で評価する。
評価		よりよい社会の実現のために、近現代の歴史を学習しているという自覚をもっているか、主体的に追及・解決しようとしているかを、学習活動中の取り組みやノート・課題等で評価する。
留		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学	習	単	元	学	習	内	容	備	考
第	4	1部 歴史の扉 2部 近代化と私 1章 江戸時代。 1 アジアのな 2 成熟する海	の日本と結び かの江戸幕	府		・前近代の日本と† ・前近代の世界				【GW探究	課題】
1	5	3 清の繁栄と 4 アジア・アフ 2章 欧米諸国 1 イギリスの車 9 フランス基。	アリカに向か における近イ 革命とアメリオ	うヨーロッ/ 弋化 7の独立		・東アジアの国際科・18世紀のヨーロッ ・市民革命と近代社・産業革命のはじる	ッパとアジア 社会 まり			中間考査	
学	6	3章 近代化のi 1 1848年~ 2 イタリア・ド・ 3 アメリカのi 4 帝国立義と	進展と国民国 近代ヨーロッ イツの統一と 太大と第2次	国家形成 パの転換 ロシアの近 産業革命	.点	・自由主義とナショ ・帝国主義と植民は					
期	7	3 ヨーロッパの 3 ヨーロッパの 4 黒船の来船 5 新体制の格 5章 近代化が	の日本接近と だと日本の対 莫索と江戸幕 進む日本とご	とアヘン戦 応 所の滅亡		・明治維新と東アシ ・帝国主義諸国の				期末考査	
第	9	5 日露戦争か 3部 国際秩序の 序章 国際秩序 1章 第一次世	ジ与えた影響変化や大衆 の変化や大衆 の変化や大界大戦と日本	化と私たり 衆化への 本の対応 半島の駆	問い	・20世紀はじめの・第一次世界大戦・ソヴィエト連邦の	の展開 成立と社会主義			【夏季探究 提出	課題】
2	10	2 東アジアの 3 中東・イント 4 ヨーロッパの 5 大衆社会の 6 日本におい	の民族自決 の復興と大衆 の出現とアメ	この影響 その政治参 リカの繁栄		・国際協調体制の ・民主主義の拡大 ・世界恐慌				中間考査	
学	11	3 政党政治の 4 日中戦争の 5 第二次世界 6 選挙区の思)断絶と満洲)始まり 界大戦の展り 原化と被害の	事変 拡大	Les .	・国際協調体制の ・日中戦争と深刻化 ・第二次世界大戦 ・アジア太平洋戦	化する世界の危機 の勃発				
期	12	3 日本撤退後 4 日本の改革	その東アジア	•	<i>б</i>		策と日本の戦後改 東アジアにおける! ・			期末考査	
第	1	4部 グローバル 序章 グローバ 1章 冷戦で揺 1 アメリカ・ソシ 2 冷戦下にま	ル化への問れる世界とF 連の緊張と	本 爰和		・冷戦の拡大と第3 ・キューバ危機と核 ・冷戦下の日本とフ	5兵器の管理			【冬季探究 提出	課題】

3 学	2	1 揺らぐアメリカと先進各国の変化	・ベトナム戦争と冷戦構造の変容 ・石油危機と経済の自由化 ・アジアの経済発展と日本	
期	3		・冷戦の終結と世界 ・拡散する地域紛争	期末考査

数 学

科目名

数 学 I

共 通

科 別

普 通

科

学年 1 年 コース名 α·選抜・進学 コース

3 単位 文理共通

教 科 書(発行所)

新編 数学 I (数研出版)

副 教 材(発行所)

3TRIAL I +A(数研出版)

学		必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮 した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。						
観点		数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。						
別	思考·判断·表現	に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明(表現)することができるかを 明考査の記述問題の解法や課題等で評価する。						
評価		自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。						
留		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。						

学期	月	学	習	単	元	学	習	内	容	備	考
第	4	第1章 数と式 第1節 式の計算	章			1、多項式の加法と減 2、多項式の乗法 3、因数分解 4、実数	法				
1	5	第2節 実数 第3節 1次不等	武			5、根号を含む計算 6、不等式の性質 7、1次不等式 8、絶対値を含む方程	式と不等式			中間考査	
学	6	第2章 集合と命属	題			1、集合 2、命題と条件					
期	7					3、命題とその逆・対作 4、命題と証明	∮• 裏			期末考査 課題学習	
第	9	第3章 2次関数 第1節 2次関数 第2節 2次関数		化		1、関数とグラフ 2、2次関数とグラフ 3、2次関数の最大・最	是小			夏季課題抗確認テスト	是出
2	10					4、2次関数の決定 5、2次方程式 6、2次関数のグラフと 7、2次不等式	x軸の位置関係	<u> </u>		中間考査	
学	11	第4章 図形と計 第1節 三角比 第2節 三角形~				1、三角比 2、三角比の相互関係 3、三角比の拡張 4、正弦定理	<u> </u>				
期	12					5、余弦定理 6、正弦定理と余弦定 7、三角形の面積 8、空間図形への応用				期末考査課題学習	
第	1	第5章 データのタ	分析			1、データの整理 2、データの代表値 3、データの散らばりと	·四分位数				

3 学	2	6、仮説検定の考え方	学年末考査 課題学習
期	3		

数 学

科目名

数 学 A

共 通

科 別

普 通

科

学年 1 年 コース名 α·選抜・進学 コース

2 単位 文理共通

教 科 書(発行所)

新編 数学A(数研出版)

副 教 材(発行所)

3TRIAL I +A(数研出版)

学		必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮 した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。						
観点		数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。						
別	思考·判断·表現	に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明(表現)することができるかを 明考査の記述問題の解法や課題等で評価する。						
評価		自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。						
留		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。						

学期	月	学	習	単	元	学	四日	内	容	備考
第	4	第1章 場合の 第1節 場合の	数と確率)数			1、集合の要素の個数 2、場合の数	Ţ			
1	5					3、順列 4、組合せ				中間考査
学	6	第2節 確率				5、事象と確率 6、確率の基本性質 7、独立な試行と確率				
期	7					8、条件付き確率 9、期待値				期末考査課題学習
第	9	第2章 図形の 第1節 平面図				1、三角形の辺の比 2、三角形の外心・内	心·重心			夏季課題提出確認テスト
2	10					3、チェバの定理・メネ 4、円に内接する四角				中間考査
学	11					5、円と直線 6、2つの円				
期	12	第2節 空間図]形			8、直線と平面 9、空間図形と多面体				期末考査 課題学習
第	1	第3章 数学と	、間の活動			1、約数と倍数 2、素数と素因数分解 3、最大公約数・最小	公倍数			

3 学	2	6、1次不定方程式	学年末考査 課題学習
期	3		

理科

科目名物

如 基 礎

必修

科別

普通

科 学年

学年 1 年 コース名

全

コース

2 単位

文理共通

教 科 書(発行所)

改訂 新編 物理基礎(第一学習社

副 教 材(発行所)

プログレス物理基礎(第一学習社)

学		主体性を持ち、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動などを科学的に探究するために必要な資質・能力を養い、日常生活や社会との関連を図りながら科学的素養を養う。
観点	知識・技能	知識の習得や概念的理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているかを、小テスト、定期考査、実験活動を通して評価する。
別	思考·判断·表現	習得した「知識・技能:を活用して問題を解決できる思考・判断・表現力を、考査、実験活動、レポート等で評価する。
評価		学習活動のあらゆる場面で、粘り強く学習に取り組み、自ら適切な学びを得ようとしているかを授業、ノート、実験活動 等を通して評価する。
留	意 事 項	年間5回を予定している実験レポートは考査と同じ扱いであるので、必ず提出すること。丸写し等の不正厳禁。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備考
第		1節 運動の表し方 2節 変位と速度 3節 等速直線運動	運動の表し方を学び、運動の様子を定量化して調べる方法を理解する。 変位と速度の概念を理解し、活用する。 等速直線運動を定量化して表す。	【教材】映像教材, スマートカート(通 年)
1	_	4節 合成速度と相対速度 5節 速度が変わる運動 6節 自由落下運動	合成速度・相対速度について理解する。 徳加速度直線運動について学び、式での表現を理解する。 自由落下運動について実験を通して理解し、重力と等加速度運動についての理解を深める。	【実験】斜面を下る 台車の運動, 重力 加速度の測定 ○中間考査
学	6	7節 鉛直投射 9節 力とつり合い 10節 力の合成と分解 11節 垂直抗力と弾性力 13節 爆性の法則	鉛直投射について理解し、式で表し活用する。 力を見つけ図示しする方法を学び、静止物体にはたらく力がつりあうこと を理解する。 垂直抗力と弾性力について理解する。 機体について日常との関いを持って理解する。	【教材】真空落ト 実験器, ストロボ装 置 8節 水平投射は 扱わない
期	7	13節 運動の変化と力 14節 作用反作用の法則	運動が変化するとき力がはたらくことを実験を通して理解する。	【実験】弾性力の 測定,力と加速度 の関係 ○期末考査
第	9	15節 動摩擦力とその性質 16節 静止摩擦力とその性質 19節 仕事 20節 仕事率	動摩擦力にどんな特徴があるか学び、活用する。 静止摩擦力にどんな特徴があるか学び、活用する。 物理での仕事の定義を学び、仕事を用いて運動の様子を理解する。 仕事率の定義を学び、日常との関りをもって理解する。	17節, 18節は扱 わない
2	10	21節 運動エネルギー 22節位置エネルギー 23節力学的エネルギーの保存 24節いろいろな運動で見る力学的エネルギー	運動エネルギーの定義を学び、運動をエネルギーを通して理解する。 位置エネルギーの定義を学び、重力と弾性力による位置エネルギーを 理解する。 力学的エネルギーの保存について実験・観察を通して理解する。 様々な運動におけるエネルギーの移り変わりを理解する。	○中間考査
学	11	1節 温度と熱 2節 熱と物質 3節 熱の移動と保存 4節 熱と仕事 5筋 熱機関と記述恋化	熱と温度の概念を学び、その違いを理解する。 熱による物質の変化の様子を学び、物質の3態を理解する。 比熱の概念を学び、熱の移動と熱量の保存を実験を通して理解する。 熱力学第一法則を学び、熱と仕事の関係を理解する。 熱機関の1~4~40間以を通りではいる。	【実験】熱の移動
期		高節 いろいろな波 7節 波の表し方 8節 横波と縦波	波動現象の特徴を日常や実験・観察を通して理解する。 波を言葉やグラフ、数式を用いて表す方法を学ぶ。 横波と縦波の特徴を理解し、違いを学ぶ。	【教材】つるまきば ね, シミュレーショ ン ○期末考査
第		9節 波の重ね合わせ 10節 定在波 11節 波の反射	波の重ね合わせを日常との関りを通して理解し作図による合成を学ぶ。 定在波の生じる理由を気づきを通して学び、その特徴を理解する。 波の反射を日常との関りを通して学び、反射波の作図を学ぶ。	【教材】ウェーブマ シン, シミュレー ション

3 学	2	13節 弦の固有振動 14節 気柱の固有振動	弦楽器が音を奏じる理由を美願・観祭を通して明らかにし、ての特徴を 理解する。	【教材】共鳴おんさ, 弦定 常波実験器 【実験】弦の固有振動, 気 柱の固有振動
期	3			○学年末考査

理 科 科目名 化

学 基 礎

必修

科 別

普 通

科

学年 1 年 コース名 α•選抜•進学 コース

2 単位 文理共通

教 科 書(発行所)

化学基礎(数研出版)

副 教 材(発行所)

ネオパルノート化学基礎(第一学習社)

学	習目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高める。そのために、実験や観察等を通して化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
観点		知識の習得や概念を理解できているか,また実験操作の基本的な技術を習得できているか,各学期の定期考査,実験レポート,単元別の小テストの年間成績等で評価する。
別	思考·判断·表現	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力等を身につけているか,定期考査の論述 問題や実験レポート等で判断する。
評価		知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等を身につける過程において, 粘り強く取り組んでいるか, 自ら学習を改善しようとしているか, 授業中の演習問題への取り組み, 実験への取り組み, 課題等で評価する。
留		単元別の小テストや実験,課題等の実施時期については,進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については,A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学	習	単	元	学	羽首	内	容	備	考
第	4	第1編 物質の 第1章 物質の 1. 純物質と混 2. 物質とその	構成 合物	結合			物質の分類とその分離法について理解する物質の基本的な成分について理解する				
		3. 物質の三態	と熱運動			物質の状態とその変	化について理解	解する しゅうしゅ		実験レポー	一卜提出
1	5	第2章 物質の 1. 原子とその				原子の構造を学び、	原子ごとの構造	の違いを考える		中間考査	
学	6	2. イオン 3. 周期表 第3章 粒子の 1. イオン結合		3		イオンの成り立ちとイ 周期表がどういう決ま イオン結合とイオン糸	もりで元素を並べ	でいるか理解で	, -	確認テスト	`
期	7	2. 共有結合と 3. 配位結合, 5. 高分子化合 7. 金属結合と	4. 分子間に 物, 6. 共有			共有結合と, 分子の配位結合の成り立ち 高分子化合物の成り 金属結合と金属結晶	, 分子間力と分立ちや構造, 共	子結晶の性質を :有結合の結晶	と理解する の性質を理解する	期末考査 課題学習	
第	9	第2編 物質の 第1章 物質量 1. 原子量・分 2. 物質量	と化学反応	式		原子の質量の表し方 物質量を用いた数の				夏季課題を確認テスト	,,,,,,
2	10	3. 溶液の濃度4. 化学反応式				溶液の濃度の表し方 化学反応式が表す』		,		中間考査	
学	11	第2章 酸と塩 1.酸・塩基 2.水素イオン				酸・塩基の定義と性質 pHと水溶液の性質の				確認テスト	`
期	12	3. 中和反応と 4. 中和滴定	塩			中和反応のしくみとり				実験(中和 実験レポー 期末考査 課題学習	
第	1	第3章 酸化還 1.酸化と還元 2.酸化剤と還				電子に着目して酸化酸化剤や還元剤のに	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	,,,	解する	冬季課題: 確認テスト 実験(酸化 元剤の反)	、 剤と還

3		3. 金属の酸化還元反応	さまざまな金属の反応性について理解する	実験レポート提出
316	2	4. 酸化還元反応の利用	電池や金属の製錬など酸化還元反応の利用について理解する	
学				
期	3			学年末考査 課題学習

科 理

科目名 生物 基 礎

必修

科 別

普 通

科

学年 1 年 コース名 α·選抜・進学 コース

2 単位

文理共通

教 科 書(発行所)

高等学校 生物基礎 (第一学習社)

副 教 材(発行所) セミナー 生物基礎 (第一学習社)

学		生物や生命現象についての観察,実験や課題研究などを行い,自然に対する興味,関心や探究心を高め,生物学的探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め,科学的な自然観を育成する。演習にて,大学入試問題を解凍できる能力を育成する。				
観点		生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。(定期考査・実験レポート)				
別	思考·判断·表現	自然の事物・現象の中に問題を見いだし,見通しをもって観察,実験などを行い,科学的に探究する力を身に付けている。(定期考査・実験レポート)				
評価	主体的に学習 に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり,科学的に探究しようとする態度を身に付けている。(実験レポート・授業態度)				
留	意 事 項	単元別の小テストや課題,ノート提出等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 実験は授業進度の状況を見ながら各学期一回以上行うこととする。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。				

学期	月	学	ZZ Ė	単	元	学	到	内	容	備	考
第	4	第1章 生物の特 1.生物の共通 ①生物の多様 ②生物の共活	通性 様性と共通			は多様であること ・生物が共通にも	を学ぶ。		生息しており、生物		
1	5	2. 生物とエネ ①生物とエネ ②代謝とATI ③代謝と酵素	ネルギー P			ATPが関わってい ・光合成, 呼吸の	異化があること,代 ることを学ぶ。 反応,ATPの合成は 特徴について理解	こついて学ぶ。	ギーの移動には	中間考査	
学	6	第2章 遺伝子と 1. 遺伝子の本 ①遺伝情報。 ②DNAの複類	本 体 と B N A			・DNAの基本的な・多細胞生物ではは細胞周期がみば	うれることを理解する	裂して増殖し,	分裂している細胞に		
期	7	2. 遺伝情報と ①遺伝情報。 ②転写と翻記 ③遺伝子とク	とタンパク質 R	Ī		・DNAの転写, 翻 いるかを学ぶ。	はの各場品で記して 多様なタンパク質が 訳の流れを理解し、 の一部であることを	タンパク質がと	ことを理解する。 ごのように合成されて	期末考査	
第	9	第3章 ヒトのから 1.情報の伝達 ①恒常性とや ②恒常性とと	をと体内環境 申経系	意の維持		・体液の種類であ・自律神経系にはことによって体内	一定の範囲内で保たる血液、組織液、リスの動物を で感神経と副交感で 環境を調節している	ンパ液について 神経があり,ここ ことを理解する	て理解する。 れらが拮抗的に働く		
2	10	③体内環境 2. 免疫 ①生体防御	を調節する	<i>、</i> くみ		血液凝固のしく。	みと体内環境の維持 る生体防御につい	寺との関係につ		中間考査	
学	11	②自然免疫 ③獲得免疫 ④自然免疫。 ⑤免疫と生活		の特徴		•自然免疫,獲得	胞や器官の種類と 免疫のしくみを理角 近な疾患,免疫とB	军する。			
期	12	第4章 植生と選 1. 植生と遷移 ①植生と環境 ②遷移のしく	: 竟の関わり			•陽牛植物, 陰牛	造について学ぶ。 植物の光合成速度 なく,移り変わって	の特徴を理解 [・] いることを具体	する。 例に基づいて理解す	期末考査	
第	1	2. バイオーム ①遷移とバイ 第5章 生態系と 1. 生態系と生 ①生能系の	イオーム とその保全 物の多様性	Ė		物を基盤としたさ、 ・日本におけるバ	年平均気温, 年降まざまなバイオーム イオームの水平分ったの水平分った。 こついて理解する。	が成立すること			

	3 学	2	②生態系における生物どうしの関わり 2. 生態系のバランスと保全 ①生態系の変動と安定性 ②人間活動による生態系への影響とその対策	・生物は、食物連鎖(食物網)によってつながっていることを理解する。・キーストーン種によって生態系のバランスが保たれている場合があることを理解する。・生態系保全の国際的な取り組み、絶滅危惧種の保全について学ぶ。		
:	期	3			学年末考査	

保健体育 科目名 **体**

育

必修

科別普通

科 学年 1 年 コース名

全 コース 2 単位

文理共通

教 科 書(発行所) 新高等保健体育(大修館)

副 教 材(発行所)

学		心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。
観点	→ = → → →	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
別	思考·判断·表現	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明(表現)することができるかを学習活動中の取り組みやICT
評価		自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留	思 争 垻	・服装は字校指定の体操者を看用する(見字者も同様)。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかりと行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。

学期	月	学	習	単	元	学	習	内	容	備	考
第	4	・体つくり運動 ・陸上競技				・新体力テストに関わる技能・足の地面への押しや上半り・自分なりのペース・走り方をランを行う。・クラウチングスタートから力	rのひねり戻しを使っ 習得し、健康保持地	曽進・体力向上を図る	うことを目標とし、20mシャトル		
1	5	・体つくり運動 ・体育理論				・スクワッドを安全に行うことが、 ・ベンチブレス、スクワット、デッ・デッドリフトを安全に行うこと・ ・スポーツの発祥と成立・スポーツ文化の発展と現代	ドリフトからなるbig3 ができる。	で自己の限界に挑戦	改する。		
学	6										
期	7										
第	9	•種目練習				・自己観察や他者観察をし、 ・クラスの輪を重んじ、競技ナ		善することができる。			
2	10	・武道(剣道)・体育理論				・素振りと自重トレーニングを ・正面素振り、早素振りを正し ・剣道における礼法を理解し ・オリンピック・パラリンピック・ ・スポーツの経済効果とスポ ・スポーツに求められる高潔	ス行える。 、実施することができ 国際社会 ーツ産業		よく高めることができる。		
学	11					・ヘ小一ノに水のりれる同係					
期	12										
第	1	・球技 【バスケットボ A) 用具の扱い B)ドリブル・パス・ C)基本技術を	シュートなどの		Ť	・ゴールリングやボールを正 ・複合練習の中でより実践に い能力)や空間能力を養うこ ・対人練習の中で、攻防の導 ・ルールを知り、知識を深め ・ゲームを通じ、勝敗を競っ	近い技能を身に付い とができる。 としさ・工夫を味わい る。	けられるとともに、他 、戦術を考える思考	者との関わり(コミュニケーショ 力を養うことができる。		

3 学	2	D)对人練省	る。 ・チーム内での役割に応じた技能を発揮することができる。 ・リーグ戦の中で、審判や運営等を主体的に取り組むことができる。 ・持続可能性からみたスポーツと環境	,
		•体育理論		
期	3			

教科名 芸 術

科目名音

楽

必 修

科 別 **普 通 • 簡 業**

科

学年 1 年 コース名

全 コース 2 単位

Ι

文理共通

教 科 書(発行所)

音楽 I Tutti+ トゥッティプラス (教育出版)

副 教 材(発行所)

学	習目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる 資質・能力を育成し、心のゆとりと豊かな情操を養うことを目指す。
観点		・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
別	思考・判断・表現	・音楽を形づくっている要素や関連性を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
評価	主体的に学習 に取り組む態度	・主体的・協働的に歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
留	意 事 項	・プリント保管用のファイルを用意すること。・観点別評価については、学年末に評価する。

学期	月	学	羽首	単	元	学	羽首	内	容	備考
第	4	・中学校までのイン・楽器学・歌唱1・歌唱2	复習テスト・教	科ガイダンス		・中学校までの学習・オーケストラの楽器・校歌を覚える。素値・日本語の歌を取り	紹介。 [な発声を心掛ける			
1	5	・歌唱2 ・鑑賞、音楽史 ・楽典1 ・実技テスト(歌	唱)			・日本人作曲家の紹・近代・現代音楽・反復記号・暗譜で一人ずつ実		 近より、自己表現力を	重視する。	映像による鑑賞
学	6	・楽典2、3 ・ミュージカルの ・ボディーパープ				・音名(日本・イタリア・ミュージカルの歴史・音楽を形作っているを工夫しながら楽ま	!を学ぶ。主要な作 る要素を知覚し、演	=品を鑑賞し面白さを 資奏法の特徴を生か		映像による鑑賞
期	7	・ボディーパー/ ・楽典4 ・1学期の復習、	小テスト			・音符の計算 ・楽典、音楽史の理	解力を図る。			
第	9	・実技テスト(ボ ・楽典5 ・歌唱(イタリア哥				・各ペアで楽曲に適・リズム譜・イタリアカンツォージの発音に注意し、。	ネ,ドイツリートにつ	いて解説。イタリア語	- 0	
2	10	・実技テスト(歌 ・鑑賞、音楽史 ・楽典5 ・筝曲	唱)			一人ずつ実施。音:・ロマン派の音楽・関係調・筝と琴の基礎知識。		目己表現力を重視す		映像による鑑賞
学	11	・筝曲・実技テスト(筝)・鑑賞、音楽史・楽典6	曲)			・筝の練習(荒城の)・一人ずつ伴奏に合・中世、ルネサンス、・音程	わせて実施。 バロック、古典派の	D音楽		映像による鑑賞
期	12	・バレエの世界・2学期の復習、	小テスト			・バレエの歴史を学。 ・楽典、音楽史の理/		品を鑑賞し、面白さる	を感じ取る。	映像による鑑賞
第	1	•創作				・二部形式の歌を作	曲			作品提出

さ 豊	_	・実技テスト(歌唱) ・鑑賞	・自由曲。曲想を歌詞の内容とかかわらせて、イメージを持って音楽を表現する。一人ずつ実施。 ・民族音楽(アフリカ・アジアの音楽)	映像による鑑賞
子 · 期	3	・オペラの世界	・オペラの歴史を学ぶと共に一つの作品のハイライトを鑑賞し、面白さを 感じ取る。	映像による鑑賞

嚭 外 国

科目名

英語コミュニケーションI

必 修

普 科 別

通

科 学年

年 コース名 α・選抜・進学 コース

単位

文理共通

教 科 書(発行所)

MY WAY English Communication I (三省堂)

副 教 材(発行所)

Next Stage英文法·語法問題 4th Edition(桐原書店) / 必修英単語LEAP Basic(数

学		英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、英語を読んだり聞いたりして得た情報を適格に理解する 能力、英語で自身の意見を的確に表現し発表する能力を総合的に培う。
観点		英語の音声や語彙、表現、文法、品詞の働きなどを理解し、これらの知識を聞く・読む・話す・書くといった実際のコミュニケーションにおいて適切に活用することができるかを、小テストや定期考査等で評価する。
別	思考·判断·表現	日常的な話題や社会的な話題について英語で情報や考えの概念や要点、詳細や相手の意図を的確に理解し、これらを活用して適切に表現したり伝えたりすることができるかを、小テストや定期考査等で評価する。
評価	土体的に子首に取り組む能度	知り得た知識を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、円滑な言語活動に向けて見通しを立てたり、 学習を振り返ったりするなど、自らの学習を自覚的に捉えている状況を、各種テスト・授業への取り組みの様子等で評価する。
留		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。(小テストにはスピーキングテストを含む)観点別評価には、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容 備 考
第	4	Lesson 1 Proverbs Around the World	【文法事項】現在形・過去形 / 進行形 / SVO(O=that節) 世界のさまざまなことわざの意味を理解する。留学生に紹介することわざ 確認テスト について話し合う。
1	5	Lesson 2 Iwago Mitsuaki—An Animal Photographer	【文法事項】助動詞 / 受け身 / 助動詞のついた受け身 岩合光昭さんの動物写真家としての生き方や考え方を理解する。図書 館に飾る写真について話し合う。
学	6	Lesson 3 Sending Canned Mackerel to Space	【文法事項】動名詞 / to不定詞の名詞的用法・副詞的用法 / to不定詞の形容詞的用法 高校生が新しい宇宙食を開発した経緯を理解する。宇宙で食べたい日本の食べ物について話し合う。
期	7	Lesson 4 Messages from Winnie -the-Pooh	【文法事項】現在完了形/現在完了進行形/過去完了形 「くまのプーさん」に込められたメッセージを理解する。留学生に紹介す る日本の物語について話し合う。
第	9	Lesson 5 Endangered Languages	【文法事項】関係代名詞(主格) / 関係代名詞(目的格) / 関係代名詞 what / It is…to不定詞 世界の消滅の危機にある言語について理解する。英語以外に学びたい 言語について話し合う。
2	10	Lesson 6 A Wheelchair Traveler	【文法事項】現在分詞の形容詞的用法 / 過去分詞の形容詞的用法 / 分詞構文 / It is…that~ 三代達也さんの世界旅行の経験とそこで気づいたことを理解しよう。旅 行者に勧める日本の都市について話し合う。
学	11	Lesson 7 The Fugees	【文法事項】関係副詞where / 関係副詞when / 関係副詞why / 比較級・最上級難民の子どもたちのサッカーチームができた経緯を理解する。海外からの移住者に対してできる活動について話し合う。
期	12	Lesson 8 Avatar Robots	【文法事項】条件を表すif節 / 仮定法過去 / I wish~ / as if~ 分身ロボットについて理解する。未来の技術や製品について話し合う。 期末考査
第	1	Lesson 9 Kadono Eiko and the Power of Imagination	【文法事項】SVOO(O = how to~) / SVO+to不定詞 / SVOC(C=動詞の原形) / SVOC(C = 現在分詞) 角野栄子さんの作品と想像力の関係について理解する。一人で暮らすこと・家族と暮らすことについて話し合う。

3		Lesson 10 SDGs-Sustainable Development Goals	SDGsに関する様々な問題について理解する。テーマを選んでグループ でディスカッションをする。	期末考査
7				
期	3			

外 国 語

科目名 **論 理 · 表 現 I**

必修

科別

普通

科 学年

1 年 コース名

α・選抜・進学 コース

2 単位

文理共通

教 科 書(発行所)

MY WAY Logic and Expression I(三省堂)

副 教 材(発行所)

Next Stage英文法・語法問題 (桐原書店) / 総合英語FACTBOOK これからの英文

学		学習した文法規則や表現方法を活用しながら、自分の考えや意見等を英語を用いて能動的に発信しようとする態度を培うとともに、論理の展開や表現の方法を工夫しながら自分の考えや意見を英語で伝える力を養う。
観点		自分の考えや意見を正しく伝えるために英語の文法規則や表現について学び、それらを正しく運用することが出来ているかどうかを、小テストや定期考査等で評価する。
別	思考·判断·表現	日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、要点や意図などを明確にしながら、情報や自分の考え を伝えあうことが出来ているかどうかを、小テストや定期考査等で評価する。
評価	土体的に子自	知り得た知識を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、円滑な言語活動に向けて見通しを立てたり、 学習を振り返ったりするなど、自らの学習を自覚的に捉えている状況を、各種テスト・授業への取り組みの様子等で評 価する。
留		単元別の小テストや課題、発表活動等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。観点別評価には、A·B·Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学	習音	単	元	学		羽首	内	容	備	考
第	4	Lesson 1 Let'	Talk about (Ourselves		現在形(be動詞					確認テスト	
1	5	Lesson 2 Scho	ol Life			過去形(be動詞]、一般動詞	刮)•現在進	行形、過去進行	行形	中間考査	
学	6	Lesson 3 The A	Arts			未来表現 (will,t 現) のまとめ	be going to	~など)・扌	基本時制(現在	形、過去形、未来	表	
期	7	Lesson 4 Food	l and Cultui	re		現在完了形①((完了/経験	:)•現在完	了形②(継続)	、現在完了進行形	期末考査	
第	9	Lesson 5 Weld	come to Oui	r Town		助動詞(can/ma 動詞を使う場合		nould) •受[動態(基本の形	/疑問詞疑問文/」	夏季課題	提出
2	10	Lesson 6 Trav	eling Abroa	id		不定詞①(名詞	的用法、形	汐 容詞的用	法)・不定詞②	(副詞的用法など	中間考査	
学	11	Lesson 7 Sport	ts			動名詞・分詞に	よる後置修	飾、分詞材				
期	12	Lesson 8 Ever	yday Techn	ology		比較①(比較級	()•比較②(最上級、「	司等比較)		期末考査	
第	1	Lesson 9 Take	Care			関係代名詞①w 省略、whose,wh		hat(主格·	•目的格)•関係	代名詞②(目的格	冬季課題	提出

3		Lesson 10 SDGs—Take Action!	関係副詞・仮定法	
学	2			期末考査
期	3			

家 庭 科

科

科目名

家 庭 基 礎

必 修

普通科 科 別

学年

1 年 コース名 α·選抜・進学 コース

2 単位

教 科 書(発行所)

大修館書店「家基709」「Creative Living【家庭基礎】で生活を作ろう」

副 教 材(発行所)

第一学習社 生活ハンドブック

学	習目標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、家庭や地域の 生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
観点	知識・技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけている。
別	思考·判断·表現	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見い出し、その解決を目指して思考を深め、 適切に判断し、表現を工夫するなど、生活を創造する能力を身につけている。
評価	主体的に学習 に取り組む態度	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り 組むとともに、実践的な態度を身に着けている。
留		小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 定期考査の点と提出物を観点別評価に組み込む。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学	羽台	単	元		学	習		内	容	備	考
第	4	う 3お金と上手に	ためのお金 付き合う術 <i>-</i>	 2 経済の 4 18歳で 	変わる消費生	2 3 4		理					
1	5	کے				6 7	購入方法・支払方 消費者信用の利用 多様化する消費者 消費者保護の法律	おと管理 ・問題				中間考査	
学	6	第9章 食生活 1 体と心を満た 2 イエローカー	のマネジメン こす食事 -ドかも?	F	社会を動かす	10 1	情報の収集と整理 消費者の権利と 食事の役割 食生活を見直す						
期	7	3 栄養バランフ4 炭水化物を				3 4	栄養素の量と食事 炭水化物の働きと	の量 食品の調	理性			期末考査 夏季休業 ゼラチンと 比較	
第	9	5 脂質を摂る6 たんぱく質を	₹摂る				脂質の働きと食品 たんぱく質をの働						
2	10	7 無機質を摂る 8 ビタミンを摂る					無機質の働きと食 ビタミンの働きと食					金融教育調理実習	構義
学		10 豊かな食卓 11 食品のプロ 12 食品を安全	フィールを知	ロる		11	調味料・香辛料・ 食品の選択と購 食品の保存と衛	λ.	加工食品			実技テスト りんごの皮 験	
期	12	13 持続可能な 14 みんなでお		を			環境と食生活 献立に立て方					 期末考査	
第	1	第3章 家族・家 1 家族って何か 2 分かってくれ 3 生活マネジュ	どろう して当然	ネジメント		2	家族の定義と家族 家族の人間関係と 家庭の機能と労働	家族間の					

3	9	4 法律から見る家族・家庭5 ダイバーシティの実現を目指す	4 家族·家庭の法律 5 家族·家庭と社会	
学	۷			
期	3	テスト返却と復習まとめ	テスト返却 復習・まとめ	学年末考査